

令和2年度 第3回 浜松市美術館協議会

日 時 令和3年3月26日（金）

午後1時30分から

場 所 浜松市美術館 2階 講座室

次 第

1 開 会

2 浜松市美術館協議会会長あいさつ

3 浜松市市民部文化振興担当部長あいさつ

4 議 題

（1）令和3年度浜松市美術館事業計画について

（2）令和3年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について

（3）その他（非公開）

5 閉 会

(1) 令和3年度浜松市美術館事業計画について

(単位：千円)

事業・事項		令和3年度	令和2年度	比較
総務費	目：美術館費	157,584	175,464	△ 17,880
	1 人件費	65,783	63,749	2,034
	(1) 附属機関の委員等	123	123	0
	(2) 会計年度任用職員	7,550	9,576	△ 2,026
	(3) 職員	58,110	54,050	4,060
	2 美術館運営事業	29,763	44,287	△ 14,524
	(1) 維持管理事業 浜松市美術館の管理運営に要する経費	25,928	40,067	△ 14,139
	(2) 資料収集保存事業 美術資料の収集、保存、修繕、管理に要する経費	3,835	4,220	△ 385
	3 美術館展覧会開催事業	57,839	65,277	△ 7,438
	(1) 平常展開催事業 館蔵作品の展覧会、浜松市市展の開催に要する経費 館蔵品展 令和3年5月1日～5月9日 令和3年7月13日～8月22日、令和3年10月2日～10月31日※特別展と同時開催 令和4年1月5日～1月19日、令和4年2月1日～2月18日※市展と同時開催 市 展 令和4年2月1日～2月18日	4,301	5,382	△ 1,081
	(2) 企画展開催事業 優れた作家、作品等をテーマに企画する展覧会の開催に要する経費 ・遠州の民藝展 令和3年5月15日～6月27日開催予定 ・静岡県立美術館名品展 令和3年11月13日～12月19日開催予定	26,009	48,549	△ 22,540
	(3) 特別展開催事業 国内・海外の作家、美術品をテーマとした全国巡回展の開催に要する経費 ・藤井フミヤ展 令和3年7月13日～8月22日開催予定 ・イタリア・ボローニャ国際絵本原画展 令和3年10月2日～10月31日	27,529	11,346	16,183
	4 美術館資料購入基金積立金 美術館資料購入基金に対する積立金	1,434	1,348	86
	5 (新規) 美術館デジタル運営経費	1,833	0	1,833
	5 美術館運営経費 美術館協議会の運営、その他一般事務に要する経費	932	803	129

令和3年度 浜松市美術館企画展・特別展開催一覧

【企画展】

展覧会名称	「遠州の民藝展」	【共催】 中日新聞東海本社
展覧会会期	令和3年5月15日(土)～6月27日(日)	44日 ※目標6,000人
<p>明治以降、急速な近代化が進む中で、それまで顧みられなかった民衆の生活に根差した工芸品に美を見出した柳宗悦は、浜田庄司、河井寛次郎、富本憲吉らとともに『日本民藝美術館設立趣意書』（1926〔大正15〕年）を発表し、民藝品の収集・保存・調査・公開を目的とする美術館の設立を目指しました。</p> <p>それに感銘を受けた中村精は柳を浜松に招き、高林兵衛、内田六郎、平松実らとともに民藝運動に参加し、1931（昭和6）年には、日本で初めての「日本民藝美術館」を高林兵衛邸内に開館しました。</p> <p>諸事情により、1933（昭和8）年に高林邸の「日本民藝美術館」は閉館しましたが、柳宗悦と内田六郎、中村精の書簡などから、以前と変わらぬ友好的関係が築かれていたことが伺えます。</p> <p>さらに柳宗悦の書生として東京駒場の「日本民藝館」の開館に立ち会った鈴木繁男は、1948（昭和23）年に磐田市に居を移して陶芸などの制作を行い、柳宗悦やバーナード・リーチが彼のもとを訪れています。鈴木繁男の協力者である寺田肇もまた、戦前は柳宗悦に学び、戦後は福田の実家で織布工場を営みながら機械産業のなかでの民藝品を模索したのです。</p> <p>遠州の民藝運動を支えた人々と、新しい民藝品を作り出した作家たちを紹介し、地方と民藝の関りを再考察いたします。</p>		
展覧会名称	静岡県立美術館名品展	【共催】 中日新聞東海本社、テレビ静岡
展覧会会期	令和3年11月13日(土)～12月19日(日)	32日 ※目標12,000人
<p>静岡県立美術館が開館して2021年で35年になります。美術館とは建物を指すのではなく、蓄されたコレクションを意味するという考え方があります。なるほど建物は静岡の丘の上から動きませんが、コレクションは移動可能です。毎年、県下各地で移動美術展を重ねてきました。このたび開館35周年を記念して、かつてない規模の移動美術展を浜松で開催します。</p> <p>静岡県立美術館は次の5つの収集方針を立て、コレクションを築いてきました。1「17世紀以降の東西の山水・風景画」、2「県ゆかりの作家・作品」、3「現代の美術」、4「ロダンと近代の彫刻」、5「富士山の絵画」。35年を経て、作品数は2700点余に達しました。そのエッセンスをご覧いただくために、5つの領域をいったんシャッフルし、天・地・人という観点から人間と向き合う展覧会に仕立てました。</p> <p>なぜなら美術と向き合う行為は人間と向き合うことでもあるからです。洞窟絵画や縄文土器を思い浮かべるまでもなく、美術は人間の歴史とともにあります。なぜ、人間はさまざまな造形表現を展開してきたのか。作り手のやむにやまれぬ欲望から、逆に、人間を超えた存在に引き寄せられて、あるいはその時々々の社会の求めに応じてと、表現の動機もスタイルも多種多様です。誰に向けて、何のために美術はあるのか、美術の不思議に迫ります。</p>		

【特別展】

展覧会名称	藤井フミヤ展 【共催】 Daiichi-TV
展覧会会期	令和3年7月13日（火）～8月22日（日） 41日 ※目標 25,000人
<p>高校卒業後の1983年、チェッカーズのボーカリストとしてデビューした藤井フミヤは、絵を描くことが好きで、ミュージシャンとしてデビューする前は画家を目指していました。デビュー後、コンピューターグラフィックスを駆使した初個展「FUMIYART -Take a break-」を1993年に開催。全国9か所を巡回し、その多才ぶりがファンに衝撃を与えました。その後、CGアーティストとして2002年にニューヨークで個展を開催、2003年には大規模な全国巡回展「FUMIYART」を開催し、線画を含む作品を発表しました。これら、藤井フミヤ自身がコンピューターを巧みに操り作り上げたCG作品や、藤井フミヤの職人技が作り上げた「ハリエ」「キリエ」等の作品群は、時を経た現在でも見るものを惹きつける新鮮さがあります。</p> <p>ミュージシャンとしてデビュー35周年を迎えた2019年には、16年ぶりとなる個展『FUMIYART2019 デジタルとアナログで創造する藤井フミヤ展』を開催し、藤井フミヤが新たに絵筆やペンを駆使して制作したアナログの作品が初公開されました。それらのなかにはルネサンス時代の聖母子像を、絵の具ではなく硬質のボールペンを使って無数の線をジグザクに交差させ、浮かびあがらせるように制作された作品や、クリムトの絵画に影響を受け制作した、精緻に装飾された画面に浮かぶ女性像を描いた作品などが発表され大反響を呼びました。</p> <p>本展では、2019年の展示作品に数点の未公開作品を加えた、100以上の作品を紹介します。</p>	
展覧会名称	イタリア・ボローニャ国際絵本原画展
展覧会会期	令和3年10月2日（土）～10月31日（日） 26日 ※目標 5,000人
<p>イタリア北部の古都ボローニャで毎年開催される、世界最大規模の絵本原画コンクール入選作品を紹介いたします。1964年から続く児童書専門の見本市「ボローニャ・チルドレン・ブック・フェア」の中で開催される本コンクールは、出版の有無に関わらず応募できることから、新人絵本作家の登竜門としても知られています。毎年約60ヶ国から3000を超える応募があり、入選をきっかけに多くの絵本作家が生まれてきました。</p> <p>世界各国から応募された入選作を一堂に会することで、新しい絵本の魅力を紹介するとともに、多様な民族の表現や美術・文化の交流を紹介していきます。</p>	

令和3年度浜松市秋野不矩美術館当初予算（案）

（単位：千円）

事業・事項		令和3年度	令和2年度	比較
総務費	目：秋野不矩美術館費	66,696	59,226	7,470
	1 秋野不矩美術館運営事業	37,275	30,480	6,795
	(1) 維持管理事業	17,931	18,309	△ 378
	秋野不矩美術館の管理運営に要する経費			
	(2) 施設整備事業	13,034	5,983	7,051
	秋野不矩美術館の施設整備に要する経費			
	(3) 資料収集保存事業	6,310	6,188	122
	秋野不矩画伯の作品収集、所蔵品の修復に要する経費			
	2 秋野不矩美術館展覧会開催事業	28,994	28,337	657
	(1) 所蔵品展開催事業	9,560	6,909	2,651
所蔵品展（5回）の開催に要する経費				
(2) 特別展開催事業	19,434	21,428	△ 1,994	
特別展の開催に要する経費				
・高橋周桑展		令和3年 5月29日～ 7月11日開催予定		
・石本正展		令和3年10月30日～12月19日開催予定		
※臨時職員の人件費を含む				
3 秋野不矩美術館運営経費	427	409	18	
秋野不矩美術館の一般事務に要する経費				

令和3年度 浜松市秋野不矩美術館・特別展開催一覧（案）

展覧会名称	「高橋周桑展」	【共催】静岡新聞社・静岡放送（予定）
展覧会会期	令和3年5月29日（土）～7月11日（日） 開館38日間※目標：7,000人	
<p>速水御舟（はやみぎよしゅう）を敬慕して師事し、日本美術院で頭角を現した後、戦後の新しい日本画表現を追求して「創造美術」結成とその活動に参画した画家、高橋周桑（たかはしよしゅうそう）（1900～1964）の芸術を回顧する特別展です。</p> <p>周桑は、18歳の時に御舟の作品評と画集に感激し、絵を描き始めます。その後、御舟に手紙を送り、1921年の暮れから上京して師事、間もなく生活をともにして修行を重ねます。1928年の再興第15回院展に初入選し、2年後の再興第17回院展で日本美術院賞を受けて院友になりました。</p> <p>1947年の再興22回院展で無鑑査となりますが、翌年に山本丘人（やまもときゅうじん）、上村松篁（うえむらしょうこう）、吉岡堅二（よしおかけんじ）、福田豊四郎（ふくだとよしろう）、秋野不矩らと「創造美術」を旗揚げして日本美術院を離脱、新しい時代の日本画創造を目指して自身の表現を展開します。</p> <p>舞台衣装や舞台美術を手掛けるなど、創作の幅を広げていましたが、病に倒れ、63歳で生涯を閉じました。本展覧会は2020年に生誕120年を迎えた周桑の歩みを振り返っていきます。</p>		

展覧会名称	「石本 正展」	【共催】中日新聞東海本社（予定）
展覧会会期	令和3年10月30日（土）～12月19日（日） 開館44日間 ※目標：7,000人	
<p>石本正（いしもとしょう）（1920～2015）は、現在の島根県浜田市三隅町に生まれました。1994（昭和19）年、京都市立絵画専門学校（現、京都市立芸術大学）日本画科を卒業した後、戦後すぐに開催された文部省主催の日展に連続出品し、画家として順調なスタートを切りました。</p> <p>石本正が秋野不矩と出会ったのは、京都市立美術大学に助手として勤めるようになった頃です。石本は、「秋野先生にはいつも温かく見守り励ましていただき、それがどんなに有難かった事か」と回想しております。1950年（昭和25年）には秋野の勧めにより、第3回創造美術展に出品し初入選を果たしました。</p> <p>本展は石本の青年時代から最晩年までの75年間に及ぶ画業の全貌を、代表作でたどります。さらに絶筆となった「舞妓」や新たにアトリエから見つかった膨大なスケッチブックや素描なども展示し、創作の原点から最期の瞬間まで、絵画一筋に生きた石本の生涯を紹介します。</p>		

※目標総観覧者数：30,000人（特別展14,000人、所蔵展16,000人）

